

『樹木博士入門』の目指したもの

-樹木観察の面白さ(1)-

岩瀬徹先生

千葉県立千葉高等学校教諭など長く生物教育の現場にあつて、身近な植物の生活を通して自然を観察する方法を研究し、それを広めてきた。

自然観察大学名誉学長。

本書では全般にわたるアドバイザーのほか、おもに第1章の企画執筆を担当。

『雑草博士入門』の初版が完成したのが2001年。『樹木博士入門』の企画が動き出したのはそのころです。今から20年前でした。その後、著者陣がそろって“チーム樹木博士”が本格的に始動したのが2015年です。

企画・執筆・撮影取材開始から完成までは5年かかりました。その間、野外で現物を観察しながら、試行錯誤の連続でした。

このレポートで掲載した写真と図はすべて自然観察大学とその関係者(禁無断転載)

● 樹木博士入門のねらい

この本では、観察という視点をたいせつにしています。教科書的、理論的な解説ではなく、野外観察で実際に見ることのできるもので、木をもっと深く知ろう、ということです。

その意味で、読者も著者も同じ目線であると言えるでしょう。

一般の図鑑では、植物の名前がわかればそれで終わり、という場合が多いのではないかと思います。名前を知りたいはたいせつですが、この本はそれで終わりではありません。

形を見る、動きを追う、くらしを考える、これらを大きなテーマとしています。つまり“形とくらし”ですね。それは博士入門シリーズや、自然観察大学でも一貫した立場にあります。

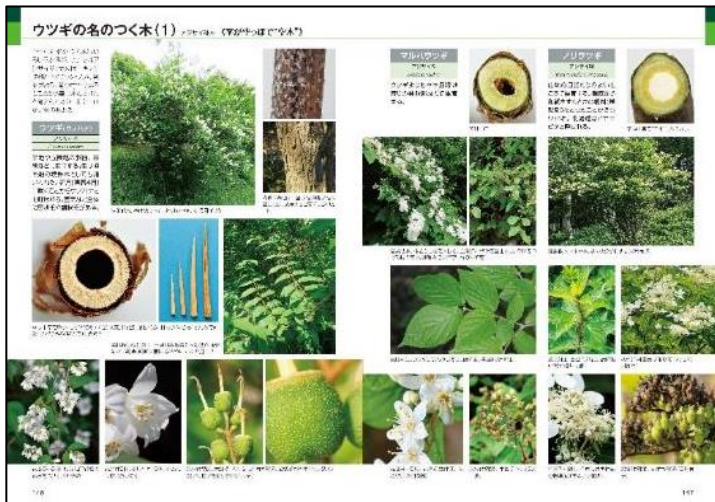
- ① 観察者の目線から(著者も同じ観察者)
- ② 名前を知ることが終着駅ではない(一般の図鑑ではない観察図鑑)
- ③ 形を見る、動きを追う、くらしを考える(一貫した立場)
- ④ 木の観察の奥深さ
- ⑤ 著者の驚きと感動(それを読者に伝えたい)
- ⑥ 伝えるためのくふうとこだわりの紙面

しかし、実際に本づくりをはじめて見ると、木の観察は奥が深いのです。

取材を進める中で、知らなかったことや本に載っていないことがたくさん出てきました。私たち著者自身が驚き、感動することがたくさんありました。

その驚きと感動をどうしたら読者のみなさんにお伝えできるか。そのためにはこだわりと工夫が重

〇〇ウツギという名のつく木はたくさんありますが、この本では4ページにわたって9種類をまとめて掲載しています。



『樹木博士入門』 p146-149

ウツギはアジサイ科ですが、ウツギの名のつく木はほかにもスイカズラ科、ミツバウツギ科などがあります。はたしてそれらの茎は中空でしょうか。

すべてのウツギの茎を切って確認しました。上の画面では見にくいので、茎の断面だけを抜き出してみましょう。



ウツギ

マルバウツギ

ナリウツギ

ハコネウツギ



タニウツギ

ニシキウツギ

ハナゾノツクバネウツギ

ミツバウツギ

ココメウツギ

どうでしょうか。我々はこんなところにもこだわっているんですね。

.....
 チーム樹木博士が発足した当初は“自分はアドバイザーとして参加するが、実際の執筆はほかのメンバーに任せる”
 といって一歩引いておられた岩瀬先生でした。

ところが、いざ観察をはじめて見ると、どんだのめり込み、次々に興味がわき、アイデアが出てきた岩瀬先生でした。